

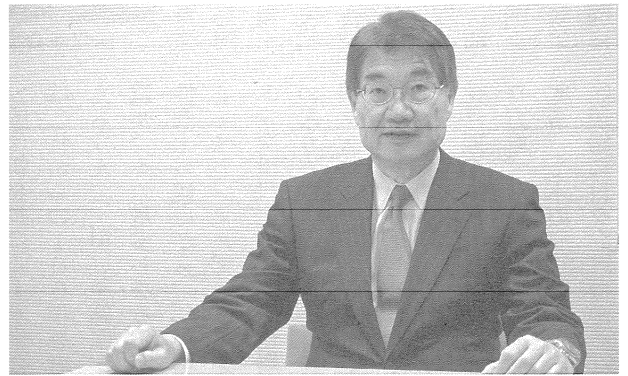
今年度、過去最高益の更新へ システム建築事業の拡大を図る

■ JFEシビル ■

JFEシビル(本社・東京都台東区、藤井善英社長)は昨年度、経常利益が

50億円と過去最高となった。15年度を始期とする3カ年中期経営計画で設定した最終年度(17年度)の経常利益50億円を、はやくも達成したことになる。藤井社長はこれを受け、今年度は売上高850億円、経常利益55億円を目指してより一層の業績伸長に取り組みたい考え。とくにシステム建築事業の拡大に注力する。

高が705億円と前年比1・5%減少したものの、経常利益は同41・6%増の50



▲藤井社長「今年度は売上高850億円、経常利益55億円を目指し一層の業績伸長に取り組みたい」

億円で過去最高益を記録。16年度決算ではさらに高みを目指し、売上高は同20・6%増の850億円、経常利益は同10・0%増の55億円と増収増益を見込む。中でも経常利益は過去最高益の更新を狙う。

建設業を取り巻く環境にふれ、まさに今の時代がシステム建築を求めているとの考えを示した。「労務事情は、先々好転しそうもない。就業者数は減少し、新規参入企業は増えず、技能レベルも下がっていくばかりだ。そこで対策のカギになるのが、工業化であり、標準化であつて、システム化だ。システム建築は、短納期対応が可能で、コスト競争力もあり、高い技能水準が不要。建設業の将来を考えると、システム建築に強いフォロワーの風が吹いている。システム建築

協力会の会員各社とともにこの流れに乗って、当社もさらに成長していきたい」と話す。同社では、最終年度に売上高1000億円を目指す新しい中期経営計画が昨年度からスタートした。藤井社長は、「2年目にあたる今年度が始まってまだ2カ月だが、確かな手ごたえを感じている。とくに、計画の成否を分けるカギはシステム建築事業部が握る。」と強調。システム建築事業に関しては全体の2割以上の業績を上げる必要があるとし、今年度は売上高170億円、経常利益10億円を目指す。

その目標達成に向けて引き続き商品開発に注力する方針という。今年度は「いちいち基礎工法の適用範囲拡大・改良型いちいち基礎工法の実用化」、「J-U Pブレース、JFE制震間柱・制震壁などデバイス商品のラインナップ拡大」を図るほか、「施工図作成のシステムの改善・強化」、「工場・配送体制の拡充」に取り組む。